

# 第15回 日本ランドスケープフォーラム 総会レポート

於 神代植物公園 文・写真=LANDSCAPE DESIGN



## シンポジウム ランドスケープの 可能性を見いだす

大山顕×山田順之×平賀達也

ランドスケープ関係者のシンポジウムらしく、外の景色が眺められるようにカーテンを開け、神代植物公園の緑を背景にシンポジウムは行われた。左から司会の阿部勉氏（ソシオトープ）、大山顕氏（サイト「住宅都市整理公社」総裁）、山田順之氏（鹿島建設環境本部）、平賀達也氏（ランドスケープ・プラス）

2008年9月20日、色づく日差しに照らされた午後、調布市の神代植物公園で日本ランドスケープフォーラム（JLF）の総会が開催された。午前の部終了後、園内の植物会館で、大きく成長した緑を背景にシンポジウムが行われた。今回はパネラーに、ライター／フォトグラファーの大山顕氏、鹿島建設環境本部地球環境室の山田順之氏、ランドスケープアーキテクトの平賀達也氏を迎え、「ランドスケープの可能性」と題し、終始力のこもったトークが展開された。

このシンポジウムは、まずはじめに三人のパネラーそれぞれのスライドトークが行われ、それをもとにパネルディスカッションが行われた。

『団地さん』や『工場萌え』などの著者で知られる大山氏は、ランドスケープを独自の視点から見たとき、今まで何気なく見過ごしてきた風景に新たな価値を発

見した一人である。スライドの中にはどこにでもある団地のポートレートが映し出されるが、大山氏の解説が加わることでそれぞれのシルエットの美しさや個性に気付かされる。大山氏が語るランドスケープの可能性は、風景を再認識することにある。

山田氏は鹿島建設に勤務する傍ら、企業のCSR事業のコンサルティングを行う「エコアセット・コンソーシアム」のメンバーでもあり、国際的なCOP9などの環境会議にも参加する研究者である。スライドでは、ヨーロッパにおいてすでに立証済みなランドスケープの価値を紹介。または数値化することでランドスケープの価値の可視化に取り組む山田氏の活躍は、今後ランドスケープの一般的な認識を高めるため、ますます必要性を帯びていくであろう。

最後に講演した平賀氏は、ランドスケープ界で今も

っとも注目されるアーキテクトの一人である。その理由は彼の得意とするデザインアプローチに、普遍的要素が重視されていることだろう。地形や風の通り道など、都市におけるランドスケープの土台をまず掘り起こす事から考えられるデザインはまさに本流。そうした風土に根ざした考え方は今一度見直され、新たなランドスケープの創造に必須課題となるだろう。

さらに、平賀氏が最近こだわっているのが樹状パターンという。普遍性のあるデザインを求めていく上で、人間の体内組織や植物の葉脈などから抽出させるパターンをデザインに用いる方法は、ランドスケープデザインにおいて有効に働くに違いない。

これら三人によりそれぞれの視点からランドスケープについて語られた後行われたパネルディスカッションでは、大山氏が会場に向けた一言から、一挙に会場